



## 前提条件

このセクションでは、Cisco Elastic Services Controller をインストールするための前提条件について詳しく説明します。

- [仮想リソースとハイパーバイザの要件 \(1 ページ\)](#)
- [vCenter のリソース \(2 ページ\)](#)
- [特記事項 \(2 ページ\)](#)

## 仮想リソースとハイパーバイザの要件

次の表に、VMware vCenter または vSphere に Cisco Elastic Services Controller をインストールするための前提条件を示します。

お使いのハードウェアプラットフォームが VMware でサポートされていることを確認するには、『[VMware Compatibility Guide](#)』を参照してください。

要件	説明
システム要件	
仮想 CPU	4 VCPU
メモリ	8 GB RAM
ディスク容量	40 GB
ハイパーバイザ要件	
VMware vCenter	ESC は、VMware vCenter バージョン 6.7 をサポートします。
VMware vCloud Director (vCD)	ESC は、VMware vCD バージョン 10.2 (vCloud API v35.0) をサポートします。

## vCenter のリソース

vCenter に作成/インストールするリソース :

- **データセンター** : 少なくとも1つのデータセンター。詳細については、以下の**重要な注意事項**を参照してください。
- **ホスト** : ターゲットのパフォーマンス目標に基づくホスト設定です。単一の vDS の下の各ホストには、少なくとも2つの物理ネットワークインターフェイスカード (NIC) が接続されている必要があります (1つはデフォルトで vCenter 管理インターフェイス用、もう1つは VDS のアップリンクポートグループへの割り当てに使用されます)。この設定は、ホスト間のデータアクセスに必要です。
- **コンピューティングクラスタ** : 複数のホストをまとめてグループ化するためにクラスタを作成できます。
- **データストア** : ユーザが DRS を利用する場合は、共有データストアが必要です。
- **分散型スイッチ** : すべての VNF サポートネットワークを含む、少なくとも1つの分散スイッチです。

## 特記事項

VMware に ESC をインストールする際、次の特記事項に留意してください。

- 1 つの ESC インスタンスでは、以下のみがサポートされます。
  - 複数のデータセンターを対象にした展開、ネットワーク、イメージ、サブネットの作成
  - One vSphere Distributed Switch (VDS)
- DPM、HA アクティブ/スタンバイ、および vMotion を無効にする必要があります。
- DRS が有効になっている場合は、「手動モード」になっている必要があります。
- 耐障害性はサポートされていません。
- データストアクラスタはサポートされていません。クラスタ内またはデータセンター内のフラットなデータストア構造のみがサポートされています。
- ESC はデフォルトのリソースプールのみをサポートします。リソースプールの追加と作成はサポートされていません。
- ESC を使用して作成されたイメージ (テンプレート) は、`/esc-ovas` フォルダ内に保存されます。

- day-0、スマートライセンス、およびその他のサポート対象ファイルはISOファイルにパックされており、VMと同じフォルダにアップロードされ、CD-ROMとしてVMにマウントされます。
- ESC/VIMは、ISOファイルの生成で渡されるファイル名やファイルコンテンツに対して応答しません。ファイル名とファイルコンテンツは各テンプレートの要件に従って指定する必要があります。たとえばASA vの場合、day-0設定は「day0-config」という名前にする必要があります。スマートライセンストークンは「idtoken」という名前にする必要があります。
- 「ネットワークの設定操作がロールバックされ、ホストがvCenterサーバから切断されています」という内容のエラーメッセージが表示された場合は、vCenterの制限が原因です。ロールバックのタイムアウトを延長するには、「[トラブルシューティングガイド](#)」(91 ページ)を参照してください。
- Cisco CSR 1000V のすべてのバージョンでは、次のVM機能と操作はサポートされていません。これらの操作が使用または実行されると、ドロップされたパケット、ドロップされた接続、およびその他のエラー統計情報が検出される可能性があります。
  1. DRS
  2. 中断 (Suspend)
  3. スナップショット (Snapshot)
  4. 復帰 (Resume)
- 展開は共有ストレージなしで処理できますが、ESCはコンピューティングリソースの最適化を保証しません。共有ストレージは、可能な限り多くのホストに関連付ける必要があります。これにより、DRSはリソースのバランスをとることが可能になります。
- VMwareのリカバリの一環として再展開が行われるたびに、VMのインターフェイスには異なるMACアドレスが割り当てられます。
- データモデルで定義されているすべてのVMグループは、「ゾーンホスト」配置ポリシーに準拠する必要があります。つまり、展開はホスト、クラスタのいずれかを対象にする必要があります。
- VMにPCI/PCIeパススルーデバイスが接続されていない場合、VMがコンピューティングホスト(ESC配置アルゴリズムに基づき選択)に回復される際に、リカバリに失敗することがあります。PCI/PCIeパススルーが有効になっているデバイスがないためです。
- PCI/PCIeパススルーが機能するには、DRSがオフになっている必要があります。
- PCI/PCIeパススルーデバイスが接続されているVMでPowerOnエラーが発生した場合は、[ここで](#)説明されているソリューションを使用して複製元のVMまたはイメージ(テンプレート)を更新します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。